

ジャイロスにおける 海外展開の取り組みと今後の展望

株式会社ジャイロス 代表取締役 やまぐち たか お 山口 高男

1. はじめに

株式会社ジャイロスは2005年の設立以来、主に政府開発援助（ODA）の航空・空港分野を専門としている開発コンサルタント会社です。これまで、南アジア、アフリカ、南太平洋地域などを中心に世界各地で、空港・航空インフラ施設の調査から計画、設計、入札補助、施工監理等を実施してきました。

また、空港施設整備や機材調達等のハードの整備に関する案件のみならず、航空管制や航空保安分野のソフトの分野でも案件を実施しており、これらの業績が評価されて、平成31年に第2回 JAPAN コンストラクション国際賞（中堅・中小建設企業部門）を受賞しました。

2. アフガニスタンでの実績

アフガニスタンにおける我が国の日本無償資金協力事業による空港整備案件には2007年から関わっており、現在まで、カブール国際空港の国際線ターミナル地区の整備、誘導路改修、駐機場拡張、空港マスタープランの作成等の業務を実施しました。また、大仏で有名なパーミヤンにおける

空港の整備も行いました。

アフガニスタンでの業務は治安状況が厳しいため、様々な制約の中での業務実施を強いられ難しい業務ですが、現地でのネットワークを構築して治安情勢などの様々な情報を収集し、現在でも安全に業務を実施しています。

日本の方々にはほとんど知られていませんが、カブール国際空港は日本による支援への感謝を表明して、空港内にアフガニスタンの国旗と並べて日章旗が常に掲揚されています（写真-1）。

弊社は、カブール国際空港長や担当省庁である運輸民間航空省から2014年に表彰されました。また、同年にはカブール空港での業務が評価され、JICA 理事長表彰も受賞しています（写真-2）。



写真-1 アフガニスタン国カブール国際空港
（国際線旅客ビル前に日章旗を掲揚）



写真-2 アフガニスタン国カブール国際空港
誘導路完成式典

3. マラウイでの取り組み

マラウイ国「カムズ国際空港ターミナルビル拡張計画」(2014年)では、旅客ビルの改修・拡張工事と航空機監視システムの設置を行いながら、JICAの技術協力案件で「航空管制人材育成プロジェクト」(2014年)及び「カムズ国際空港監視システム運用支援プロジェクト」(2017年)の二つの技術協力プロジェクトを実施しています。

アフリカ大陸南部にあるマラウイの首都空港であるカムズ国際空港は、日本の円借款によって1980年代に建設された空港ですが、ピーク時における航空機の発着集中による旅客ビルの混雑や施設の老朽化が問題となっていました。また、当時整備されたレーダーも2000年代に故障してしまったため、マラウイ領空内の航空機の監視が効率的に実施できていない状況でした。

これらの問題を解決するために、旅客ビルの拡張及び改修と航空機監視システムの整備を目的とした「カムズ国際空港ターミナルビル拡張計画」が2014年から開始されました。また、カムズ国際空港にはマラウイ航空学校があり、航空管制官や技術者の育成を行っていましたが、この航空学校の能力を強化する「航空管制人材育成プロジェクト」も2014年から実施しています。

このプロジェクトでは、マラウイの航空学校の訓練カリキュラムの作成や教官への訓練を、第三国であるケニアや南アフリカの航空学校の協力を得て実施しました。

また、「カムズ国際空港ターミナルビル拡張計画」の調査結果から、航空機監視システムとして、二次監視レーダー及びADS-B(放送型自動位置情報伝送・監視機能)の設置が決まりましたが、マラウイにはレーダーを使った航空管制官がいなかったため、「カムズ国際空港監視システム運用支援プロジェクト」でレーダー管制を行う航空管制官の養成を行っています。

マラウイでは、大規模なインフラ整備が他のドナーや国の援助によっても行われていますが、日本の無償資金協力で空港を整備していることを広報することは、事業実施を行っているコンサルタントの業務の中でも重要なものと考えています。

このため、現地の小学生や中学生、高校生、大学生と様々な年代の学生に対し、建設現場を社会科見学の場として提供し、定期的に現場見学ツアーを実施しています。2018年4月には、マラウイ南部商業都市ブランタイヤにあるマラウイ大学工学部の学生30名、教授3名を1泊2日の建設現場見学ツアーで招待しました。

マラウイでは大規模な建設事業は少ないため、現在進めている空港整備事業の視察は、学生にとって非常に貴重な経験となりました。また、建設現場へ招待した学生のうち、2名の学生をその後インターンとして受け入れ、約3週間、施工監理業務を経験してもらいました。

ターミナルビルの改修では、運用中の空港の一部を仮囲いで囲い改修工事を実施していますが、JICA海外協力隊で現地の小学校に派遣されている隊員と協力し、この仮囲いに小学生が描いた大きな絵を展示しています。また、展示をする際にはこの絵を描いた小学生を空港に招待し、社会科見学として空港の見学を実施しました(写真-3)。

このような機会の提供については、マラウイ大学関係者だけでなく、駐日マラウイ大使、在マラウイ日本国大使館、JICA本部やJICAマラウイ事務所からも、若手技術者の育成に寄与し、将来的な雇用機会に貢献する取り組みとして高い評価を受けており、駐日マラウイ大使から2017年に感謝状を受け取りました。



写真-3 マラウイ国カムズ国際空港
(小学生の絵を空港の仮囲いに設置)

また、マラウイ航空の機内誌にも定期的に本プロジェクトの内容や進捗を載せてもらい、マラウイ航空利用者へのプロジェクトの広報も実施しています。

4. 社内安全体制

株式会社ジャイロスは、アフガニスタン、パキスタン、チュニジアやモロッコ等、戦後復興国や、テロの脅威を受け、テロ対策強化施策を実施している国々での業務実績が豊富にあります（表-1）。

これらの国々において安全に業務を実施し、海外業務での様々なリスクに対応するため、社内安全管理体制の強化や、安全情報共有には万全を期しています。昨今頻発しているテロ事件に鑑み、

近年では、保険会社・民間セキュリティ会社、外務省等の様々なソースから、業務を実施している国に関するより最新の海外安全情報を積極的に収集し、安全管理体制の強化を図っています。

5. おわりに

株式会社ジャイロスは、今後もアフリカ、中央アジア、大洋州地域等において、航空・空港整備分野を軸に、日本の高い技術力を駆使したハード面でのインフラ整備業務に積極的に関わっていきたいと考えています。インフラ整備においては、施設の運用状況までを考慮した計画を上流側から行い、設計を進めた後に施工監理を行うまで、一貫した業務に従事することを基本理念としています。

また、施設を整備すると同時に、施設の維持管理や機材の効果的で適切な運用に係るソフト面（人材育成等）の支援を行い、施設や機材がプロジェクト完了後も有効的・適切に使われ続けることを願っています。

プロジェクト実施の際には、事業完了後も地域発展に貢献し得る人材の育成、技術の移転を図るため、現地の若年層を対象とした技術能力の向上・強化に貢献し得る、ハード及びソフトの継続的な協力を提供していきたいと考えています。

表-1 ジャイロスの主な実績

進出国	空港	時期	事業分野
アフガニスタン	カブール国際空港 パーミヤン空港	2006年～現在	空港整備、保安機能強化
ソロモン諸島	ホニアラ国際空港	2017年～現在	空港整備
チュニジア	チュニス・カルタゴ国際空港	2014～2017年	治安対策強化
パキスタン	カラチ国際空港 ムルタン国際空港 ファイサラバード国際空港 新イスラマバード国際空港	2017年～現在	空港保安強化
バブアニューギニア	トクア空港	2018年	空港整備調査
フィリピン	マニラ新国際空港	2015年	空港施設計画、環境社会配慮
マラウイ	カムズ国際空港	2014年～現在	空港整備、人材育成
ミャンマー	ハンタワディ新国際空港	2015年	空港計画・設計、調査
モロッコ	ムハンマド5世国際空港	2014～2017年	治安対策強化